

臺灣總督府
臨時情報部

報部

昭和十四年五月十一日發行
（每月一日、十一日、廿一日發行）

勤勞と休養との均衡

（警務局衛生課）

非常時局
下に於ける
本校の教育施設

（臺北第一高等女學校）

内外情報

（臨時情報部）

事變日誌（四月攻勢）

五月十一日號

（第六十一號）



秋の蓄貯民國そこ今



「貯めよ百億、興せよ東亞」百億圓貯蓄を目標に愈々四月から國民舉げての大運動が開始された。昭和十四年度は國債消化資金約六十億圓、一方軍需關係等の生産力擴充資金として日滿支を通じ四十億圓を要するからである。若しこの國民貯蓄が完全に行はれないならば、物價は騰貴し、輸出は減少し、國民生活は極度の不安に陥つて、果ては戰爭遂行の上に大支障を生ずることになるのである。

われらの同胞が、親と分れ、子と離れ大陸にてあらゆる困苦缺乏に耐へながら、死生の間に彷徨して一死報國の誠を盡してわれ等國民を護つてゐる。他面事變の影響を蒙り、父祖傳來の職業を失ひ、生活を脅かされ、日夜苦惱を續けてゐる。「銃後の戦死傷者」とも云ふべき氣の毒な同胞が數十萬と居る。

右の實情に思ひ至つたならば、銃後國民たるものは、自律自戒、生活を緊縮して出来るだけの貯蓄をしなければならぬ。

況んや抗日支那は勿論、授將國家群は虎視眈々としてわが國の經濟力の疲弊を狙つてゐる。國民は斷然經濟的底力を見せてやらねばならぬ。これが最後の勝利を得る唯一の道だ。

(寫眞は勸業銀行臺北支店へと公債を求める公衆)

勵よめ生産



燦々と降り注ぐ初夏の陽光を浴び
つゝ鹽水を吸上げ生産力擴充へと
いそしむ銃後の赤誠。



1. 復興と建設の意吹き強き中華路の繁華 2. 宣撫工作に大きな役割を持つ共
榮會經營新華戲院前の雑沓 3. 十三層の摩天樓を誇る廣東名物愛群ホテル

勤勞と休養との均衡

警務局衛生課

家族揃つて健康な時には一同嬉々として戯れ、明るい
朗かな氣が家族内に満ち溢れ、一家團圓の日がつゞいて
幸福其のもの如く、傍の目にもまことに羨ましい光景
であるが、若し一人でも病床に就くやうなことがあれば、
よしや療養に事欠がない家庭であつても、家の中は忽ち
陰氣臭くなつて来る。

實に健康は萬人の希求して止ざるもの、そして病氣
は萬人より厭み嫌はるゝものではあるが、人間生身であ
る以上病から絶対に免れ度いと云ふことは無理な望みで
ある。

然し我々は日常の生活を反省し、検討を加へ之を保健
的に合的化するならば、更に進んでは鍛鍊によつて、體

力の増進を圖つたり、困苦缺乏に耐ゆる心身を養ふなら
ば、或る程度まで完全に病氣を防ぐ事も出来るし、不幸
病に罹つても病勢悪化に至らずして、速に之を退散せし
め得る事は疑の無い所である。

固より人間には生來賢愚の別あるが如く、強弱の別あ
り、又老幼男女の別あり或は都會生活と農村生活、或は
寒、温、熱帯生活、或は富める生活と貧しき生活と云ふ
が如く、生活環境にも色々相違があるから、一概には斷
じ難いのであるが、我々の生活は勤勞と休養との反覆連
續であると云ふ點に於ては、何れも共通であると思ふ。

そして我々に活動力と休養とを與へる主なるものは、信
仰と衣食住であると思ふ。我々は平素此の衣食住を調製

して、勤勞と休養との間に均衡を保持するならば即ち新陳代謝は調子よく行はれ、病魔に侵襲の間隙を與へず、常に心況く體胖に活動力は益々持続せられるのである。然るに親の生きて居る間は親の恩を忘れ易く、金有る時は金の有難味を思はざるが如く、動もすれば、健康なる時は健康の有難味を忘れ、勢の赴くまゝに流れて放縱な生活に陥り易いのである、そして遂に勤勞と休養との平衡が破れて、思はざる病魔の奴となり徒に悔ひ苦しむものが案外多い。之に反して生來頑健でない者は平素衣食住に注意して自ら戒めてよく節制し、そして勤勞と休養との平衡保持に努むる結果、病床に就くことも稀となり漸次健康體となつて、長壽を保つた例は乏しくないのである。

安物の靴と雖も穿き方が亂暴でなく、毎日泥を拭き取り、クリムをつけてよく手入れをするならば、翌日穿き心地がよければかりでなく、相當永い間結構役に立つものであるが、假令よい靴であつても、泥の附いたまゝ脱ぎ放して置くやうでは、間も無く皮が固くなつて足に豆が

出來たり、やがては皮に裂が入つて靴としての壽命が短くなる。之と同じやうな譯で、我々は自己の健康は固より家族全體の健康に付ても、平素充分な注意を拂ひ其の手入れを怠ることなくくば即ち日常生活を保健的生活化するならば、必ずや健康に恵まれ國家社會の爲に充分奮闘努力して尙よく天壽を全うし得ることは勿論一家の繁榮は期して待つべきものがあるのである。故に家庭生活の中心たる主婦に對して特に希望することは、御家族の保健的生活に就て深き理解を持たれ、之が實踐に努められたい事就中子女の衣食住と、運動、休養に就ては、或は放任主義或は干渉主義に陥ることなきやう格別な關心を拂はれ、此等の調整に御留意せられ度いのである。換言すれば子女の生活はよく食べ、よく學び、よく遊び、よく眠るやうにあらしめて欲しいのである。斯くして小公學校時代より保健的生活の習慣を養はしめて欲しいのである。

惟ふに我々國民が國家に盡す奉公の第一は先づ健康たる事である。況んや今次聖戰は、日清、日露の兩役に比

して其の規模遙かに大なるのみならず、東亞新秩序建設と云ふ大仕事を抱いてゐることを考ふる時、然も戰爭事變の後には國民體位の低下及結核、花柳病其の他各種疾病の増加蔓延等が必ず附きものなることは、内外史實の明かに示す所なるに鑑みる時、我々には彌が上にも疾病の豫防、健康の保持増進、體力の向上等所謂保健衛生に關する理解を深め、日常生活の保健的に合理化して、銃後の守りを一層固むると共に、人的資源の漸養を圖りて、次代に迄備へ以て健康報國の誠を致し、此の時局を乗り切らなければならぬ。

今回の健康週間は實に此の趣旨に基いて實施されるものであつて、保健生活の全般に亘り、島民の實踐を促すことは勿論であるが、現下の時局に鑑み特に左の三つのスローガンを掲げ之に主力を傾注することとしたのである。

一、健康増進先づ榮養

榮養は吾々の生活にとつて大切であることは謂ふまで

もない。殊に結核豫防、乳幼児保健のためには、榮養改善が最も大切である。物價騰貴と勞働強化が一般的傾向となつて居る現下の状態に於ては、榮養の低下を來す虞が多分にあるのであつて、廉價榮養品の供給、榮養品の自給等は最も適切なる榮養改善策として考慮せられなければならない。本週間に於ては、先づ近時漸く世人の注意を喚起しつゝある、白米食の廢止を強調するものであつて、これは單なる榮養改善の問題たるに止まらず、非常時に於ける資源愛護の上より見ても大切なことである。

二、護れ子實育てよ強く

我が國の乳幼児死亡は、保健施設の整備と育児思想の普及により年と共に漸減の傾向にあるが、なほ歐米諸國に類例を見ない程の高率を示して居るのである。殊に事變による影響は、生活力の微弱な乳幼児に對しても顯著に表れることが豫想せられるのであるが、今後の我が國は特に人的資源の培養強化が要望せられる所であつて、

第二の國民たる乳幼児の育成には特に注意し、よく生み強く育て、行くことは銃後國民義務である。殊に花柳病は子孫に對する影響本人の生活力の減殺等からしても、甚だ恐るべき悪病であつて、本病は結核と共に戦争と頗る密接關係を有するものであるから、これが豫防は實に現下の急務である。その豫防方法は云ふまでもなく、感染の機會を絶つことが第一であるから、接客營業者の保健向上と一般民衆に對し花柳病豫防に關する知識の普及が極めて肝要である。

三、仰げ陽光親しめ大氣

我が國に於ける結核の蔓延は、文明國に類例を見ない程で、年々十三、四萬人の人々がこの悲惨な病の爲に斃れるのである。これが國民保健に及ぼす影響は實に甚大であり且本病の性質上國民經濟に對する損失も豫想以上である。殊に結核の蔓延が豫想せらるる事變下に於ては、結核豫防は最も主要な問題であつて、本週間の運動も當然に結核豫防に主力を注がねばならぬ、これが爲来る八日には全國結核豫防團體を總動員して、特に結核豫防宣

傳に懸命の努力を爲すこととなつた次第である。畏くも皇后陛下に於かせられましては、我が國結核病の現狀に深く御憂慮あらせられ先般有難き御命令を賜り且御内帑金御下賜の御沙汰を拜しましたる事は誠に恐懼感激に堪へない次第でありまして、吾々斯業關係者は勿論本島官民一致協力益々結核の豫防並に治療に一段の努力を致し以て、大御心の萬分の一に酬ひ奉らんことを期する次第であります。

以上の如く本週間は、事變下の健康週間として、最も重要な項目について、國民の實踐躬行を要するもので、要は國民が健康報國の決意を固め、保健衛生に關する眞の理解と自覺を以て家庭生活を保健的に合理化して行くことである。その結果は必ずや國民の疾病が減少し、健康は増進し、體力が更に向上することは疑ふ餘地が無い。唯島民に要望する所は、凡ての運動で實踐によつてのみ意義を持つものであり、健康週間の効果も國民一人一人の協力實踐を俟つて始めて期待することが出来ることに思ひを致し、本健康週間の機會とし、保健生活の實踐に協力せられん事を切望する次第である。



非常時局下に於ける 本校の教育施設

臺北第一高等女學校

(一) 國家總動員と教育の非常時體制

今我が國は支那事變に際會し有史以來の非常時に直面してゐる。その非常時たるや單に武力戦によつてのみならず、非常時ではない。世界大戰の際に於けるドイツの例に徴してみても近來の戦争は武力戦以外に經濟戰、思想戰といふ極めて複雑な形態をとるものである。従つて戦争は第一線の將兵のものばかりではなく國內のあらゆる分野に延長せられ、國を擧げての總力戦となり銃後國民の結束團結が戰の勝敗を決する必須の條件となつたのである。

この様な見地から我が國に於ては今次事變に際し國家總動員が力説せられ經濟は戰時體制となり思想界に於て

も國民精神總動員運動が着々實施せられ非常時に處すべき國民の異常なる覺悟を求めつゝある。

かゝる國家總動員に當り教育者は如何に之に参加すべきか。之に對して昭和十三年九月九日の内閣告諭號外に「凡ソ難局ヲ打開シ國運ノ隆昌ヲ圖ルノ道ハ我が尊嚴ナル國體ニ基キ盡忠報國ノ精神ヲ益々振作シ之ヲ國民日常生活ノ間ニ實踐スルニアリ。今般國民精神總動員ヲ實施スル所以モ亦此ニ存ス」とあつて政府が國民精神總動員を實施するに至つた所以を明かにしてゐる。なほ同年十月四日文部次官通牒の中「學校ニ關スル事項」に於て「本運動ハ生徒兒童ノ教育トシテソノ徹底テハカナルコト」とあり文部省に於ても今時局に際し特に青少年子女の教育の目標として國民精神の發揚を緊要時としてゐる。

ることが明瞭である。

即、今事變を好個の教育の機會として本來の使命達成に努めるは勿論一段と日本精神を發揚し眞に舉國一致盡忠報國の赤心を披瀝し時難克服に邁進するやう努むべきで、こゝに教育の非常時體制といふことが強調されることとなる。

然らば教育の非常時體制とは何か。即如何なる形態をとつて非常時局下の教育は行はるべきかといふに先づ平時に於ける教育過程を非常時的雰囲気にて強化すること、一方課外に於て非常時に直接的な事項について活動することである。

(二) 非常時局下に於ける本校の特殊施設

非常時局下に於ける本校教育の着眼點は千載一遇の機會を如何に日常教育に導入すべきかにあつた。而して國民精神の發揚、忍苦鍛錬の修養、經濟生活の徹底、國民體位の向上を自覺せしむる等時局即應の生活を生きた實例下に端的に導くにある。

かうした見地から、支那事變の勃發と同時に本校に於ては、之に處する具體案について逐次考究をすゝめたが、取敢へず昭和十二年七月二十一日緊急職員會議をひらき、學校長は職員の勤務に關し訓示を行ひ、翌二十二日には「時局に關する職員の心得」を文書を以て全校職員に通達し、先づ職員は率先、その範を垂れることとし、又生徒に對しては休暇申請行事により登校する毎に懇切な訓示を行つた。かくする内生徒數名が銃後の努めに對し、具體的に呼びかけた旨を申し出たので、愈々機運が熟し、七月二十八日本校内に慰問部を設けることとなり、同二十三日登校日には全校生徒に對し學校長より根本的な訓示があつた。これは非常時局下に於ける本校教育の態度の根本を示すものである。

即ち本校職員生徒は

- (一) 素行を慎みつゆほども他から指彈をうけぬやう萬事に留意すること。
- (二) 身體強壯に氣をつけ心身の鍊磨に努力すること。
- (三) 恤兵慰問等につき出来る限りの至誠をさしづけること。

と。

なほこの恤兵慰問に關しては、

- (一) 毎日考へ毎日實行し毎日祈つて如何にさゝやかな奉仕でも良いから永くつゞけていくこと。
- (二) それから生徒必ず一丸となつて協力の實を示すこと。
- (三) 又自ら働き自ら汗を流し自らを苦しめて軍人將兵の勞苦に答へることを希望しその實行に移ることとした。

なほ其の後銃後の責務を一層強化統制し、他と協力して一大運動となさんために、州下の高女を打つて一丸とする愛國高女團が誕生することとなつたので本校に於ても欣然之に参加し臺北第一高女分團を結成し他分團の模範となるやう誓つたのである。

このやうにして力強く銃後の教育は發足したが我々は先づ本來の使命に向つて考察を加へねばならぬ。即一般的施設の強化を如何にはかるべきかに就いて考究し次のやうな活動をなすつゝある。

(以下説明に用ひた數字は事變發生後昭和十四年三月三十一日迄のものであることを附記しておく。)

一、愛國運動

(イ) 神社参拜

國威宣揚、皇軍必勝、皇國並に皇軍への感謝の意味に於て臺灣神社建功神社へ参拜すること十七回

(ロ) 謝恩日

毎月一日を謝恩日とし國旗掲揚、宮城遙拜、學校長訓話を行ひ、皇室國家に對する恩、親の恩、師の恩、社會に對する恩特に陸海軍將兵に對する恩を感ぜしめてゐる。

(ハ) 奉仕日

戊申詔書御下賜日(十三日)を奉仕日とし勤儉力行の精神を強調せんために毎月この日授業時間後校内に於ける特殊作業並に陸軍病院の清掃に従事し尙且廢品提供を行はしめてゐる。

特殊作業は不用紙による愛國メモ、愛國封筒の作製、雑巾縫ひ、カーテン、鍋蓋、オルガン、ロッ

カ―地歴物化博物館の標本等の修理修繕掃除用具、
教用物の整理、洗濯物、遺失物の整理、校庭の清
掃等多方面に分れ全校職員生徒一齊の勤勞作業で
ある。

なほ廢品提供は空瓶不用金屬類、古新聞紙、古本、
古雜誌、古教科書、ゴム、ボロ、ブリキ罐等多種
多様に分れ、その一回分の賣上高は二十八圓に上
つてゐる。

(二) 週間行事並に記念日

支那事變勃發以來國民精神總動員週間三回國民精
神作興週間二回國民精神總動員健康週間一回統後
後援強化週間一回尙武週間一回滿洲事變記念日二
回支那事變一週年記念日一回南京陷落記念日一回
を経たのであるが夫々の趣旨に則り多方面に亘る
活動により深い感銘を與へてゐる。次に昭和十三
年七月七日支那事變一週年記念日の行事をかゝげ
てその一端を伺ふこととする。

支那事變一週年記念日行事

(本) 偉人祭

○〇枚贈呈

一、他の團體の出征軍人慰問に参加(エハガキ五

呈)

一、本校關係凱旋軍人慶祝(祝饌頭、日の丸扇贈

呈)

一、市内戦死者遺族弔問(花束贈呈)

2 應召軍人(ハンカチ、日の丸扇、慰問狀贈

呈)

1 出征軍人慰問袋慰問狀

一、職員生徒關係應召軍人慰問

一、市主催の新願祭並に慰靈祭に參列

一、一人一品獻納(古金屬の廢品提供)

一、校舎内外清掃(勤行作業)

一、節約辨當(鹽むすびの握飯)持參

一、講演「應召七箇月を回顧して」 島田校醫

一、學校長訓話

一、國旗掲揚式(君が代、宮城遙拜默禱)

支那事變勃發以來乃木祭義士祭楠公祭宣長祭等を行つて偉人追慕の念をたかめ、時局と關聯せしめて日本精神の發揚につとめてゐる。この主な行事は講演、生徒のお話、唱歌、朗詠、朗讀、詩吟、劇等を行ひなほ之と並行して當該偉人に關する圖書、並に繪畫展を行つてゐる。

(ハ) 國華室

皇室、國家に關するもの、國史の發展に關するもの、我が國固有の風俗習慣に關するもの、日本の景観に關するもの等を臨時陳列し、皇國を理解し、敬慕し、愛着を感じしめんための施設である。日々の陳列以外に臺灣郷土展、滿鮮繪圖展、日本婦道に關する圖書展等も行つてゐる。

二、時局に對する理解

(イ) 朝會訓話

月曜朝會は勿論毎朝の會合に於ても事ある毎に之を説明し時局生活の理解に努めてゐる。

(ロ) 學級訓話

(ハ) 各科教授

學級主任は晝の生徒との會食後、學校揭示、新聞、週報(内閣情報部) 輝く日の丸、部報(督府臨時情報部) 將兵よりの慰問文等により戦争の經過、將兵の生活、銃後の活動等につき説明してゐる。

修身科に於ては吾々が見聞事變に即應した美談佳話を直ちに教材として適用し。

公民科に於ては國防に關する概念を與へ、國防への參加を具體的に知らしめ。

國語科に於ては事變關係の御製御歌の謹解、作文の際に於ける慰問文、激動文の指導、又戦地よりのたよりの講讀は國民の快意と感情を傳へるよき機會として取扱ひ。

歴史地理科に於ては關係事項の説明は勿論、歴史科の史實の現代的意味の把握に留意することは時局則應の精神を導くよい手懸りとし。
理科に於ては非常時的教材資料の取扱。
家事裁縫科に於ては恤兵品の研究、非常時經濟の

指導

體操科に於ては積極的鍛鍊、國民體位を自覺せしめる

等、夫々の立場より時局に結びつけ、時局則應の精神の強調につとめてゐる。

(二) 揭示教育

生徒昇降口と、地歴研究室の外部壁面に前者は支那事變、時事問題誠忠美談にわけ、後者は主として教材に即した問題を大體一週間置きに取換へ新適切な材料を豊富に示してゐる。又一週間置きに時事問題の寫眞ニュースを掲げてゐる。

(ホ) 校友會誌臨時特輯號

事變發生とともに校友會では特輯號を發行し、事變の經過概要、事變關係の告諭、聲明書、注意書等、又は本校慰問部の活動等に關し記載し時局の理解、時局生活への自覺に努めてゐる。

特輯號は第五號で終つたが、昭和十三年度より校友會誌は四箇月おきに發行となりやはり特輯號の

内容をそのまゝうけついでゐる。

(ハ) 講演

本校職員により又は外部より講師を招聘して事變關係又は時局生活に關係ある講演を多數行つてゐる。その演題のみを挙げると北支事變の由來北支事變と吾等、滿洲事變と北支事變非常時局と無敵排除、上海戦線慰問の話、銃後における女性の立場、海外に於ける邦人の活動並に日本の進出、應召七箇月の生活を回顧して、前線將兵の苦心、常熱の戦を中心として、臺灣育ちの青年子女について、支那事變と我等の覺悟等。

(ト) 映畫劇

耳、目を通じて支那事變を、又日本精神を高潮せしめるべく映畫、劇の觀賞は隨時行つてゐる。事變發生以來觀覽した主なものを挙げると次のとおりである。事變ニュース、正義日本、小楠公とその母、スパイ戦線を衝く、五人の斥候兵、海軍生活、東洋平和の道、出世太閤記、南郷小佐、聖

戰、皇道日本、西南の役と大西郷、歌舞伎劇、羽衣(能)等である。

(チ) 見學其の他

見學も亦事情の許す限り多く参加し、時局理解の一方便としてゐる。事變勃發以來參觀した主なものは支那事變展覽會二回、軍艦見學一回、ハイソケル機見學、總督府博物館戦争繪巻見學等である。なほ有志に臺灣時局讀本を講讀せしめるとか、

昭和十三年度國民精神作興週行事の一つとして「女學生としての生活改善」に關する論文募集とか昭和十二年九月事變勃發直後「支那事變と吾等」と題し作文を作らしめ、事變の性質又は事變に關する覺悟を調査する(事變性質を了解しをるもの九八%、事變に關する覺悟を記しをるもの九九%)等特筆すべきものである。

三、時局に處する鍛鍊修養

學校教育に於ける時局の生活の主眼點は心身の鍛鍊にある。かうした見地から本校では、體育德育も重

視し各般の施設によりその趣旨の徹底に努めてゐる。

(イ) 極積的施設

愛國運動の項で説明した神社參拜、月曜朝會、謝恩日、奉仕日、週間行事並に記念日、偉人祭、國華堂等を通しての精神修養は重複は避けることとし今一層端的に心力の鍛鍊をあらはすものと、體位向上に關する事項について概略することにする。

◎非常訓練防衛訓練

敵空軍の來襲に際し本校を防衛せんとする想定を設け全校職員生徒が本部、連絡、警報、奉護、消防、避難、警備、衛生の各班に分れ學校長の指導の下に一系亂れぬ行動をとる練習で、最後に學校長は全般の行動について講評を與へ時局精神を強調するのである。

◎勤行作業

全國的に行はれたこの種の運動に欣然参加し、昭和十三年度夏季休業中定められた日の臺灣神

社境内の清掃作業二回、校内で行つた前記後期五日宛（午前黎明隊午後黄昏隊の二回）の各種作業の外、この精神を延長して、毎日の洗濯奉仕毎月十三日の修理修繕作業、陸軍病院掃除、年末の軍隊への餅搗奉仕等を行つてゐる。今之等勤行奉仕の業績（月の修理修繕作業を除く）を數的にあらはすと次の如くなる。

作業日數	参加延人員
1. 神社清掃作業	一二日 一〇五〇
2. 校庭整理、花壇作製其の他	一二日 一〇五〇
3. 軍需品作製（慰問部の活動の部参照）	三五日 九一七五
4. 洗濯奉仕（慰問部の活動の部参照）	
5. 軍隊用餅搗奉仕	二日 一四〇
6. 陸軍病院清掃	一〇日 二一〇〇

右は本校に於けるものと夏季休業中臨海學校に於けるものとを含む。

◎臨海學校

例年淡水の同窓會館を宿舍として行ふのであるが、昭和十三年度は勤行作業其の他時局精神を適用して行事中に朝の宮城遙拜、朝と就寝前の父母への挨拶、淡水神社境内淡水會館内の清掃作業、夕食後の修養談話等、又身體方面に於ては毎朝の検温毎日午後の體重測定等を加へた。就中補習科並に家政科生が放事を擔當し經濟的にゆとりをみせただけでなく、家政の修養、勤勞愛好、又、下級生へのよき感化となつて豫想以上の好成績を収めた。

◎園藝・弓道を準正科とす

園藝弓道による心身錬磨の教育的價值を考慮し、昭和十三年度より之を準正科とした。特に弓道による日本人の性格、園藝による女性的趣味の養成は遂次その成績を収めるものと思はれ

る。

◎授賞方針の吟味

従來の學業成績本位を打破し操行、身體を優等生決定の必須の條件とした。なほ特別賞を設け操行善良なるもの、學業成績の進歩顯著なるもの、體位優秀なるものを之に當てた。

なほ功勞賞についても考慮を加へ學級役員、生徒役員、運動選手を通じて多方面に亘る學校への功績を吟味し加ふるに隠れた善行美績を調査し、口頭或は文書にてその稱揚につとめてゐる。

◎體育的特殊施設

○朝會及終會體操

朝會體操は月曜を除いて毎朝、終會體操は月、水、土の三日晴雨に拘らず行つてゐる。

○徒歩主義の勵行

バス通學の許可範圍を二軒以内より三軒以内に延長し、登校下校には徒歩通學の勵行につとめてゐる。

◎遠足の獎勵

年二期の學年別遠足の外好天の日を選び全校一齊に遠足を行ふことである（士林への芋掘り、士林公學校、帝大グラウンド行、景尾への芋掘り等）なほ校友會徒歩部主催で有志の登山を行つてゐる。（事變以來角板山、塗潭山、竹子湖、小坪頂越へ、淡水行碧山殿、大嶺峠、ウライ、和尚洲等に行つてゐる。）

○例年の催であるが、昭和十三年度は漳和公學校本校間の一萬米の新コースを選んだ。従來よりも千米多く且つ道路も比較的よくなかつたのであるが一等一時間一分（一昨年一時間四分）團體成績は、一等一時間八分四十七秒六（一昨年一時間十分六秒）の好成績を示した。

○體育演習會

例年の催ではあるが昭和十三年度は非常時意識を強調せんため開始に先立ち、戦歿將兵への感謝出征軍人の武運長久祈願のため一分間

の職務をさげなほ演技種目中に建國體操、手榴彈投、傳令競争、救護競争等を加へ、來賓にも百五十名の傷痍軍人があり、まことに事變下の體育演習會にふさはしい情景であつた。

○校友會各運動部の活動

校友會運動部に排球、籠球、庭球、陸上競技、弓道、水泳、遊戯、徒歩の八部があり、各部門も「課外運動指導細目」によつて練習し臺灣體育協會並に體育協會臺北支部主催競技會には必ず出場するを本體とし夫々活動してゐる。

○狹窄射撃の練習

補習科並に第四學年生徒約二百五十名は卒業を前に控へた昭和十四年二月十日職員引率の下に歩兵第一聯隊に出向狹窄射撃の練習をして軍事思想の普及軍人精神の體得の上に多大の收穫を得た。

○乘馬部の新設

昭和十四年四月七日愛馬の日の行事として本校校友會に乘馬部を新設し遊戯部に屬せしめることとした。馬事思想の普及、動物愛護の情操陶冶と、馬術をとほしての心身の練磨を目的としたもので、毎週二回(月、水)州畜産會の斡旋で練習を行ふことになつてゐる。

○オリンピック選手招聘

南部村社兩選手の來臺、又菅沼、吉岡選手を始めとし兒島、峰島等の女流陸上選手が冬季練習に來臺されたのを機會に本校に招聘し、講演を依頼し、又直接本校生徒の指導にあたられ、多大の收穫を得た。

○體位判定

年一回全校生徒の基礎體力検査(身長、體重、胸圍、比胸圍、比重、背筋力、肺活量の測定)をなし體位を判定してゐる。目的とする所は生徒各自に自己の體位を自覺させるとともに

要養護生を判定しこれに対する指守を考慮するにある。

○夏季休業中の特種施設

臨海學校は一期間五日づつ七期間行ひ、その内容については既に述べた。昭和十三年度は例年の新高登山に更に合歡山(三年)を加へた。

校友會運動部の夏季練習一週間と選手指導は殆ど全期間を通じて行はれた。

なほ十三年度は、毎月曜日を保健運動の日とし、全校職員生徒出席、先づ一齊にレコードにあはせラジオ體操を行ひ終へて約一時間各部に分れて運動を行ひ、孰れの部にも屬しない者は川端橋迄遠足を行つた。

(ロ)

消極的施設

體位向上の積極的施設の反面に虚弱兒の取扱ひについても萬全を期してゐる。即傍診と稱して生徒の顔色、氣力、浮腫、上氣等に注意し又、毎日晝

食の際、檢温を行ひ、その結果を學級主任衛生部主任、體育主任、教務主任、學校長が檢閲して體温の變化の著しきもの、三十七度以上が三日以上連續のもの等々を注意し、又毎月體重を測定して、減少するもの等を注意する等、各方面の觀察により懸念あるものは速刻校醫の診断を乞はしめてゐる。

なほ校醫の診断により、要養護生を判定し、これについては家庭と連絡をとり、正課體操、課外、作業等を免除或は削減をなし、養護上遺漏なきを期してゐる。

又これら要養護に對しては夏季の特種施設を考究してゐる。

(ハ) 慰問部の特設

課外に於て事變と直接關係ある事項について活動する立前は已に述べた。國民精神總動員運動としての奉仕作業や獻金運動に参加することが如何に非常時意識を高めるに力あるか、又慰問袋や慰問

品によつて如何に將兵の士氣が鼓舞され、應召、出征、入營兵の送迎、傷病將兵並に遺骨出迎、應召、出征遺家族慰問及弔問、傷病兵慰問、事變關係葬儀參列が如何に生徒を感激させ減私奉公、堅忍持久の精神修養のよい糧となるかは今更論を俟たない。

要するに今や生徒教養上絶好の環境におかれてゐるのである。この環境に如何に順應し生徒教養の手段とするかは本校の常に留意してゐる點である。

即ち述べたとほり事變勃發後間もなく昭和十二年七月二十八日に本校に慰問部が特設されたのはこの趣旨を組織的に又積極的に實行に移さん爲のものである。

慰問部は本校職員若干名と生徒の委員(三年以上各級二名宛昭和十三年四月より實施)により組織され、毎週一回例會をひらき將兵慰問並に女學生としての銃後生活の具體的事項につき談合し適當

な事項については着々之を實行に移してゐる。なほこの際生徒の發議を重んじ職員は追從的に意見をのべ飽く迄教育的に取扱つてゐる。

昭和十三年七月八日長くも竹田宮大妃殿下の臺臨を本校に仰ぎ奉り銃後の奉仕状況並に體操遊戯を市内三高女合同で臺覽の光榮に浴した。本校の臺覽品は慰問部の活動を示す寫真慰問圖畫、愛國封筒、愛國メモ、愛國風呂敷、日の丸鉢巻、千人針、勤勞作業による雑巾、慰問文、哀悼、慶祝の和歌、慰問部の活動を示す圖表等で遊戯は愛國行進、卒業生は他校卒業生と合同で繡帶巻きを臺覽に供した。又補習科生徒八名は御茶奉呈の光榮に浴したのであつた。この日殿下には本校の奉仕状況に入お目をとゞめさせられ、後に學校長をお召しになり誠に有難い御言葉を賜つて職員生徒並に卒業生一同深くこの光榮に感激し今後一層の精勵を誓つたのである。

慰問部の活動については本校の歴史として反省の

資料にそなへん爲、又家庭に配布してその了解と援助とを求めんために事變勃發以來三回(昭和十二年十一月、同十三年三月、同十四年一月)慰問部のはたらきを詳細に集録し之を父兄に配布してゐる。今その内より主な事項を摘録してその活動の状況を示すことにする。

1. 奉仕作業

イ 洗濯奉仕

事變勃發後間もない昭和十二年八月十五日臺北第一師範學校配屬將校上坂中佐が特別講演の爲來校された際學校長から、軍隊の洗濯をお引受けしたい旨を話されたことが動機となつて臺北市内警備の將兵の方々の洗濯奉仕が開始させられた。

最初は三年以上の生徒が一級宛順次に當り女職員は二名宛之が監督に當つた。集配は男職員二名乃至一名宛當ることとし、臺北州自動車組合と原川運送店の斡旋によりトラック

を提供され之に當つてゐたが昨年七月からガソリンの統制によりトラック使用が不能となつたので、爾今兵隊さんの方から御足勞を願つてゐる。ムット匂ふ汗や埃にまみれた軍衣を渾身の力をこめて洗ふ所に限りない感謝と勇氣が沸き起つて生徒教養上深い効果をもつものと思はれる。

事變勃發以來殆ど無休で繼續して數的にも次に記すやうな大きい結果をみてゐる。

即、種類は襦袢、袴下防暑衣、防暑袴、作業衣、作業袴、枕掛、敷布、腹巻、襟布等で昭和十二年八月十五日より昭和十四年三月三十一日迄で五七八日間延人員二萬六千十人、洗濯物總點數は二萬九千三百四十四點に及んでゐる。蓋し、本校慰問中の最たるものといふことが出来る。

ロ 軍需品裁縫(軍部依頼によるもの)
軍用包布二千枚

自昭和十二年十一月

至同 十一月二十日

軍用包布千枚

自昭和十二年十二月十四日

至同 十二月二十日

軍用敷布三百枚

自昭和十三年一月二十七日

至同 二月二十七日

ハ 慰問品其他

千人針、日の丸鉢巻、日の丸の旗又は慰問袋に入れる揮お守り袋、馬につける布札の作業等、なほ古着類による雑巾奉仕は昭和十二年夏季休業以来休日又は補欠時間作業日の奉仕時間を利用して作製をつづけてゐるが、その数三八〇〇枚に及んでゐる。其他勤行作業として行つた臺灣神社の清掃作業校内での各種作業、軍隊の餅つき奉仕、毎月奉仕日の特殊作業はこゝでは省略することにした。

2. 廢品提供

雑巾作製用の古着類をはじめとして毎月十三日、空瓶、空罐、古新聞、古本、不用金屬類、ボロ等の提供事變發生以來ひきつゞき行はれ、その賣上高は二百八十圓二十七錢（昭和十四年二月迄）となり慰問部の基金に繰入れられてゐる。

3. 慰問袋及び慰問品贈呈

慰問袋の調製は生徒の節約金又は特寄りの品でつくつたもの（總督府示達の全島慰問袋を併せ）八回千五百十餘箇に及び、海軍武官室其他より依頼を受けてつくつたものは三回その数は六千九百五十の多数を占めてゐる。

慰問文は慰問袋調製の際は勿論のこと、あらゆる機会を捉へ發送に努めてゐる。この發送数は明確な数字を表はすことはできぬが一萬五千通に垂んとしてゐる。其の他の慰問品は多種多様にわたるが日の丸鉢巻は出征軍人の爲に贈呈し

たもので格別深い感銘を與へた。之亦明確な數字をあらはし得ないが、大體二千本餘りに達する見込みである。

其の他陣中慰問の雜誌類を二回にわたり七八〇有餘冊、陣中慰問の人形を三回にわたり八五〇餘箇生徒が丹精して栽培した朝顔菊を海軍武官室並に陸軍病院に、生徒の圖畫作品を陸軍病院に贈呈したり、又生徒の手になる慰問繪ハガキ（九〇〇枚餘り）を戦地に托送する等多種多様の活動をしてゐる。

4. 献金

事變以來職員生徒共緊縮生活を強調し、剩費を節約してその一部を献金する様努めてゐる。生徒の献金はその指導よろしきを得ないと非教育的な結果となるおそれがあるので、この點に特に留意し、生徒の努力により自己の體を若しめて得た節約金であることを條件とし、小額づつでよいからいつ迄も永くもちつづけるといふこ

とに意をはらつてゐる。

かうした職員生徒の節約金と時折の寄附金が集つて左の様な多額の慰問金となり慰問部活動の源泉となつてゐる。

生徒節約	一一、四六、四六圓
廢品(生徒の持参せるもの)	二八〇・二七圓
雑巾(生徒の勤勞によるもの)	一七五・五〇圓
校友會節約	一一三・五〇圓
臨海學校節約	八二・九六圓
職員寄附	五四八・四七圓
父兄寄附	一一〇・〇〇圓
生徒寄附	一一二・四六圓
其他	八九・一二圓
計	三六七八・七四圓

右の節約金の中生徒の節約金が首位を占めてゐるが、これは全校九百の生徒がうつて一九となり並々ならぬ努力により零細な金を集めたもので最注目と植すると思ふ。今試みにある學級の

節約金の内訳を示すと次の如くなる。

バス賃の節約 三五人
遠足のお菓子代の節約 二四人
お小遣ひの節約 五人
副食物の節約 七人
文房具の節約 九人
映畫觀覽の節約 七人
理髮代の節約 七人

5. 應召出征入營兵の見送り

出征凱旋の際は時刻の如何に拘らず職員生徒全員見送り又は出迎へをなし、應召入營の際は全員又は代表で、之亦時刻の如何に拘らず洩れなく見送してゐる。

又授業中、應召、入營兵が學校附近を通過される際は職員の場合により一齊に萬歳を唱へてゐる。

其の他本校職員生徒關係の者が通譯又は宣撫班又は軍夫として出征される場合もかゝらず見送りしてゐる。

りしてゐる。

又卒業生が從軍看護婦として、又は從軍タイピストとして出征する際は全校職員生徒で盛大な壯行會を催してゐる。

6. 傷病兵出迎

これ亦時刻の如何に問はず全校職員生徒又はその代表で毎回かゝらず出迎へてゐる。

7. 應召遺家族慰問及弔問

職員關係縁故者並に生徒關係縁故者(生徒の父兄又は同居の伯父、義兄を調査し、應召出征者遺家族名簿をつくり學校長、慰問部長、學級主任とその組の正副級長が各家庭に伺ひ挨拶にそへ激勵の手紙、千人針、種等を贈呈してゐる。又右關係者の戦死された場合には遺骨到着の際學校長、學級主任その組の正副級長が驛に出迎へ、自宅迄お送りし尙且、香奠をそへ職員生徒交々弔問を行つてゐる。なほ右關係者以外の市内の戦死者の御家庭に對

しても各校友區で生徒代表が数名花束をもつて弔問し、お慰めの言葉をのべてゐる。なほ特殊行事に因んで行つた慰問弔問は、次のとおりである。

イ 國民精神總動員第二強調週間

(出征將兵への感謝の日)

◎職員生徒關係の出征應召家族に對しリボン人形贈呈

◎市内戦死者遺族に對し御供物戦死者を悼む

和歌一種贈呈

支那事變一週年記念日

愛國運動の項に説明のとほり。

ハ 銃後援強調週間

市内戦死者の靈前參拜お花を供へる。

ニ 漢口陥落旗行列

旗行列後生徒關係應召出征の遺家族を訪問祝賀と感謝の意を表した。

なほ昭和十三年五月には市内の歸還兵のお宅に

祝歸還の和歌を贈呈した。又新たに一年に入學した生徒並に卒業した生徒に關係した應召兵の家族に對しては入學並に卒業のお喜びを兼ね慰問してゐる。

一方松山小使の應召に際してはお饌別やお菓子を送り又遺族には時々手料理を贈る等まことにうるはしい情をさゝげてゐる。

8. 傷病兵慰問

生徒の監理上單獨での慰問は遠慮させてゐるが慰問部としては七回毎月十三日の奉仕日に掃除をかねて行ふこと十二回に及んでゐる。大ていの場合花束、お人形、生花、雜誌、繪はがき等の孰れかを贈呈してお慰めしてゐる。

又昭和十三年十月十三日體育演習會の際は多數傷病將兵の御出を願ひ演技をお目かけエハガキ、キャラメル、煙草を贈呈した。

又十一月十三日には慰問學藝會を催し傷病將兵と本校職員生徒關係の遺家族をお招きして各種

の演技をお目にかけた。又このうさの一部は圓山の陸軍病院の娛樂室で演出して多數の傷病將兵をお慰めた。

9. 事變關係葬儀參列

聯隊葬市葬は勿論のこと職員生徒關係の戦死者の葬儀にも慰問部長その組の級主任正副級長は必らず參列香典を贈呈してゐる。

なほ昭和十三年二月二十八日松山で爆撃の犠牲となられた人々の慰靈祭、同年十月十三日報導戦線の犠牲となられた春日の松田記者の慰靈祭にも參拜させてゐる。

(三) 卒業生との連絡

本校の卒業生は時局の進展と共に銚後の結束皇軍慰問に全力をあげるべく昭和十二年十月十九日臺北市公會堂に於て七百五十余名の參加の下に常盤愛國子女團を結成し、同窓會幹事長二瓶教諭を團長として本校高女團と相呼應して活動することとなつた。

なほ其の後の卒業生は入會費五拾錢を納め欣然この活動に參加してゐる現在員九〇七名の盛況で各般の活動をしてゐる。

校歌

一、皇御國の雨の
鳥の民草榮え行く
光榮ある教布かんとて
是ぞ我等が母校なる

二、朝夕に劍潭の
月影滄き淡水や
姿を忍びたゆみなく
集ふや九百の姉妹

三、天惠豊けき常夏の
常磨の綠蔭深く
我等が學園の撫子花も
かはらぬ操養へや

此處蓬萊が美し鳥
基培ふ女子の
夙く開かれし學び舎は
畏き宮居仰ぎつゝ
旭に匂ふ大屯の
心を磨き身を錬りつ

鳥に繁れる草は木は
永劫の生命の表示なり
正しく強く淑かに

内外情報報

臨時情報部

興亞會館出現

經濟統制への協力と興亞の認識を深める目的にて島都の本島人實業家に依り「興亞會館」を永樂町二丁目永樂ホテル階上にこの度設立した。新聞雜誌の閱覽、玉突等の設備もあり、一面社交機關として華々しく誕生した理であるが如何に時局の脚光を捕へるか期待されてゐる。

州歌並聯合青年團歌の吹込

臺中州に於て豫て募集選定せる臺中州歌は東京音樂學校、臺中州聯合青年團歌は帝國海軍々樂隊に依頼して作曲のところ既に爲りたるを以て、更に之を一般に普及徹底を計るべく東京コロムビアレコード會社にその吹込を依頼の所之を編曲の上伊藤久男松原操(ミスコロムビ

ア) 兩歌手に依り吹込み已にテスト盤は到着今明中にはレコードが着荷の筈である。州下各地では州歌の壯重團歌の快調なるメロデーを聞くを大いに期待されてゐる。

臺中州慰問團廣東で大好評

伊藤警務部長を團長とし去る四月二十三日演藝團を引率し出發した臺中州南支皇軍慰問團一行は廣東省以來廣東ホテルに滞在して二十七日夜最初の慰安演藝會を開催したところ従來廣東に來た慰問演藝團中最も優秀なりとの好評を博し大成功を収めた旨電報があつた。

白衣の勇士慰安の夕

臺中州聯合青年團、愛國婦人會臺中州支部、臺中州教化聯合會の合同主催に係はる白衣の勇士慰安の夕は五月

尚臺中支店では四月十九日から各郡に對し出張買上を繼續して大に拍車をかける筈であると。

豐里移民村記念式

常夏の臺灣を墳墓の地とし内臺融和を日差し勇躍臺中州北斗郡の新天地に移住し汝々として農耕に勵む豐里移民村では去る四月十八日が丁度滿二周年に當るので此の輝く記念日當日入村記念式並に催物をなした。

- 一、北斗神社參拜
- 二、記念献木
- 三、入村記念式(北斗公會堂に於て)
- 四、記念運動會
- 五、村民慰安映畫の夕

五十戸の移民鹿島村に入村

昨年移民二百戸の一部は北斗郡豐里村に大部は同郡鹿島村に夫々落着き着々農耕に實績を擧げつゝある際今回四月二十七日より五月七日まで七回に拂り五〇戸二六七

一日午後七時から臺中座に於て開催された。招待者白衣の勇士若干名の來場あり、主催者側からは坂口内務部長田中教育課長及社會教育關係々員、各市郡關係者それに男女青年團愛婦會員等多數出席、定刻坂口内務部長の挨拶に次で白衣勇士代表の謝辭あつて後大屯郡西屯女子青年團員の舞踊、臺中州青年團歌を以て演藝の幕は切つて落され各市郡から選出された男女青年團保育園等の舞踊に劇に音楽に次々と演出し御國の爲めに働いた傷病兵の慰安にと力一杯に満場の拍手を浴び白衣の勇士を心から慰安し午後十時盛況裡に散會した。

臺中州金賣却運動

臺中州下に於ける第二次金銀國運動は州當局及臺中、彰化、南投の三臺銀支店の努力により着々その效を奏しその明確な統計的數字は未だ判明しないが彰化支店扱ひは既に五百萬圓を突破したと云はれ臺中支店扱ひもこゝ數日中に五百萬圓に到達し得る見込で、兩支店扱ひに南投支店扱ひを加へるときは優に一千萬圓を突破してゐる

名の移民が鹿島村入村をなすことゝなつた。移民の原籍別は福岡、佐賀、長崎、福島、香川、高知、滋賀、長野、新潟、茨城、熊本、鹿児島各縣である。

臺中州下青年教育調べ

臺中州では今般全州下一萬五千の青年(滿二十歳)に對て身體検査を實施することであるがこの身體検査と同時に教育調査をも行ふことゝなつた即ち各出身校種別に其の程度に従つて第一部修身、公民科、第二部國語第三部數學の三部門の學力調査を行ひ且公學校中途退學者及不就學者等に就てはその原因を調査する豫定であるが、本調査の結果には多大の期待が懸けられてゐる。

女子青年道場の開設

臺中州では婦人の覺醒と其の活動の頗る緊切なるものあり、女子青年團活躍愈々重大性を加へつゝある時昭和十三年度の實績に鑑み本年度第一回女子青年道場を設置し女子中堅青年を訓練して婦人教化の指導陣に備へん爲

め市郡下より適任者四十三名を選抜し四月十二日より同二十一日まで日月潭林間學校に於て女子青年道場の開設をなすことゝなつた、訓練指導教科並講師左の如し。

科外講話	内務部長	坂口	主税
同	教育課長	田中	保
社會教育と生活	社會教育主事	高橋	金四郎
改善問題	青年團の使命と經營	宮脇	正令
體操遊戯	州體育主事	早川	喜代須
國民道德と婦人修養	州 嘱託	中村	義朗
時局と皇道日本の榮國精神	同	同	同
團體訓練	同	島越	梅一
生活指導音楽趣味娛樂	同	竹下	ミッオ

黄麻栽培五箇年計畫獎勵

臺中州では四月十日勸業課に於て各製糖所代表者の來集を求め黄麻浸水場設置獎勵に關し協力を決めることになつてゐるが、州當局に於ては時局に鑑み昨年度黄麻栽培面積一千二百甲歩を一躍六千五百甲歩に擴大し、更に

自給自足を圖るため本年度より五箇年計畫を以て黄麻栽培を奨励すると共に本年度に於ては浸水池十七萬八千二百六十三坪を築造する豫定で、前年度の四千五百坪に比し約四倍餘の飛躍を見せてゐるが、これで六千五百甲歩の黄麻を十分精洗麻たらしめ得る事となつた。

在留邦人の動態（新嘉坡）

海峽殖民地及英領馬來在留邦人人口動態に對し今次事變がどの程度の影響を及ぼして居るかは注目されて居るが目下帝國總領事館に於て調査中の昨年十月一日現在管内職業別在留邦人々口の中先づ判明した新嘉坡在留邦人總てに付て見るに内地人三、四四六名、朝鮮人九名、本島人三三名、計三、四八八名にして事變勃發直後の一昨年十月一日現在の三、九七三名に比し四八五名減少して居る。之は右一箇年間に新嘉坡在留邦人中半島各地邦人經營嶺山に轉業せる者一時は三、四百名に達したこともあり且つ皇軍占據地域の治安恢復と共に逸早く新天地を目指して飛躍した者も可成りな數に達したことが原因で、

半島中地方によつては却つて増加した所もあるものと見られ全體的を見れば大した増減はあるまいと見られてゐる。

國際觀光局の出店出現（新嘉坡）

國際觀光局では躍進日本の實情紹介國際親善の促進海外宣傳に努力し來つたが今回更に時局に鑑み一層在外宣傳機構の擴充を計ることになり海外主要地に在外宣傳員を設置することに決定、新嘉坡駐在宣傳員として南洋協會產業館長を委嘱して來た。特に事變勃發以來當地を中心とする南洋方面に於ける對日認識の是正親善工作の必要は痛感されて居る處であるので產業館長も右委嘱を承諾今後觀光局から送附される印刷物、寫眞、映畫、幻燈等の宣傳資料に依つて日馬親善に本格的に乗り出すことになり大に期待されて居る。

スターリンの沈黙と蕭清工作

（外國雜誌に依る）

獨逸の東方進出に對する牽制の役割を演ずべき蘇聯が

るであらうし、一方國際間の紛争に處しては依然死人の沈黙を守るに餘儀ないであらう。

支那に於ける最近の事態

上海タイムス

支那事變の軍事的方面は稍重要性を失つて居るかの如く考へるのは兩國指導者の最近の言明に徴し誤りである。日本は抗日軍隊及政權の壊滅の後にこそ日支間の平和の來る事を確信してゐる模様であり、當地外人間には日本の目的は政治的優位の獲得に非ずして平和克復後といへども支那の主權は保持されるであらうといふ考が漸次有力になりつゝある。先般日本を訪問して歸還した者の言に依ると日本に於ては一切は國家的見地より統制せられ經濟力衰退の徴候は少しも存せぬとの事である。一方長期戦は重慶政府内の共產分子の勢力増大を招くであらうし赤化の危機が十分考へられる。支那の有識者の問題とするのは明日の支那である此の長期の事變に拘らず日支の協同東亞の聯合の必要は人類の福祉の爲論を須たさざる事である。

昨秋の歐洲の危機に際して、リトヴィノフの條約遵守の空言は別として終始沈黙を守つた事は何を意味するか。過去三年に亘つてスターリンの清掃工作の犠牲となつて外交官、行政官、司法官、將校、士官教授、著作家、ジャーナリスト、藝術家等々、所謂「失踪」した者は枚擧げに遑がない。死刑に處された者は三七年度では蘇聯紙に依れば四千乃至五千に上るが、事實は此の十倍に達する事は先頃日本に逃じた極東オ、ゲー、ペー、ウー長官リュシニコフの確認した所でもある。逮捕、拘禁、追放事件に至つては無數である。此等の事件の真相に關しては歐米人は認識に欠けてゐるが、斯くの如き内患が一方に存しては外國との大きな摩擦の惹起を忌避する事は當然である。

蘇波不干渉協定破棄を威嚇した蘇聯の覺悟に對する波蘭の強腰を見ても此の間の事情が推定される。過度の産業化、強制的集合農業、飢餓等の爲に人不足さへ來たし今も尙續いてゐる蕭清工作の恐怖は更に又次の恐怖を呼びスターリンは最後の大破滅にまで行かざるを得なくな



臨時情報部

四月十九日

- 1 武寧西側地帯の敗敵を一掃せり。
茶皮嶺(武寧西方十數軒)北方山嶽地帯に蠢動する約一千の敗敵を急襲遺棄死體三百に上る大打撃を與へ東北に潰走せしめたり。
こゝに於て武寧西側地帯に於て武寧警回を企圖し蠢動する敵は影を没せり。
- 2 驅逐艦「早潮」の進水式盛大に舉行されたり。
關門海底隧道貫通式舉行
千古の謎を秘める急潮の麓の海底に科學の眼を輝ふこと三十二箇月本土九州を地底に結ぶ關門鐵道の試掘道坑は常開の苦闘今日開られ世界隧道史上に不朽の一頁を飾る曙の貫通式舉行せられたり。
- 3

四月二十二日

- 1 市況街南方戦線にある部隊は錦江を敵前渡河敵の要衝高河原を占領せり。
 - 2 空軍の爆撃
【内郷】(河南省西甯)一同飛行場及市街軍事施設を爆撃せり
【玉山】(貴州省)【麗水】(浙江省)【建甌】(福建省)各飛行場及軍事施設を攻撃大打撃を與へたり。
【鎮海】(寧波)附近を偵察攻撃し威遠砲臺及附近軍事施設を爆撃大打撃を與へたり。
【福州】軍機局をはじめ重要軍事施設を粉砕し更に埠頭及大型汽艇二隻を銃撃これを擱坐せしめ多大の戦果を収めたり。
 - 3 特偵に治安維持會成立せり。
- 四月二十三日
- 1 江門附近に蟄集せる敵に對し空陸相呼應し攻撃を敢行、第一線を突破敗敵を迫撃戦果擴張中なり、尙舟艇別動隊は西江水路を挺身し遠く敵の背後に進出敵の退路を完全に遮断せり。
 - 2 常營集占領
常營集(離海線歸德南方四十五軒)一帶に蟄居せる敵約

四月二十日

- 1 武漢特別市政府成立式を舉行
- 2 【平陸】(霍縣)【襄城】(夏縣)山西省南部に展開されし地上部隊の掃蕩戰に協力敵軍陣地を爆撃多大なる戦果を収めたり。

四月二十一日

- 1 陵水占領
藤橋に上陸せる部隊は道路上の諸障害を突破し石井大墩附近の椰子林中に潜伏中の敵を撃破敗敵を猛追陵水に突入これを占領せり。
- 2 金門島海軍守備隊は來襲せる敵を撃破せり。
- 3 空軍の爆撃
【垣曲】黄河對岸の爆撃敢行函谷關附近道路上を暴走中の敵トラック群百臺に巨弾を浴せ完全にこれを潰滅し更に黄河上の敵舟艇約四百を覆滅せり。
【藍江】軍事施設爆撃
【新會】(江門)附近に集結中の敵部隊を銃撃を加へ潰滅せしめたり。
【連塘】敵の高司令部を爆撃せり。
【金門島對岸】敵の據點部落を爆撃せり。



- 3 空軍の活躍
【傳單】(湖南)二十一日湖南省一帶、二十三日浙江、江西、福建各省に各々傳單を撒布し南昌攻略と我が破竹の勢にある戦況を非占領地區の支那民衆に知らせ、これが覺醒を促す所ありたり。
【垣曲】敵の黄河渡河點を空襲大打撃を與へたり。

四月二十四日

- 1 偏關奪回を企圖せる部隊に對し機先を制して棲子溝(同南方七軒)の敵陣を奪取し敵を潰走せしめたり。
- 2 空軍の爆撃
【海陽】(青島の東北方)附近乳山口の敵陣地を爆撃これに大打撃を與へたり。
海陽北東所在の敵兵器廠は猛烈に炎上せり。
【沙洋鎮】(漢水の西岸)漢水を渡河出撃を企圖せし集結中の數千の敵大集團並に渡河中の戎克三十數隻に巨弾を浴せ敵の出撃企圖を完全に撃破甚大なる打撃を與へたり。
【高要】【新興】(高要の西南三十軒)【高明】(江門西方地區の

掃蕩戦に協力し敵に猛爆を加へ更に敵の無電臺、軍需品倉庫、敵兵積載の戎克群を爆撃し尙餘力を揮つて各所に残敵を求め猛爆せり。

四月二十五日

1 畏くも天皇陛下には靖國神社に御親拜あらせられたり。

2 空軍の活躍

【山西省東南部の敵を次の各地に總攻撃の火蓋を切る】

【遼縣】太原東南百二十軒【榆社】密縣【榮澤】潞安【福州】金牌、長門兩砲臺を反復爆撃し更に碼頭荷揚場、倉庫、交通局、無電臺並に省政府を爆撃炎上せしめたり。

四月二十六日

1 祁縣北方の青年抗敵決死隊、工人自衛隊を包圍殲滅す。

祁縣(太原の南方)北方十二軒西社鎮、楊落堡附近に在り同前線破壊を企圖せる青年抗敵決死隊、工人自衛隊約一千の包圍殲滅戦は二十五日一齊に火蓋を切り二十六日遂にこれを殲滅せり、敵の遺棄死體五六七赫々たる戦果を収めたり。

2 泗水(徐州西北八十軒)にて我が守備隊は約一千の

敵を奇襲し、二百五十の遺棄死體を残して潰走せしめるの大戦果を収めたり。

3 空軍の爆撃

【温州】温州攻撃部隊は縣政府、軍需工場、江岸附近の荷揚場及倉庫多数を爆撃せり。
【鎮海】附近に集結せる小型舟艇群を襲撃し何れも甚大な損害を與へたり。

四月二十七日

1 支那事變第十回論功行賞發表さる

行賞の恩典に浴するもの四千九百七十四名なり。

2 空軍の活躍

【山西省南部】渡河點に於て渡河船群を猛爆更に敵の據點を反復猛爆多大の戦果を収めたり。
【靈州】倉庫及見張所及び其の他の軍事施設を破壊し大打撃を與へたり。

【贛州】(江西省)【長汀】(福建)を急襲せる部隊は飛行場、同滑走路倉庫及市街の軍事施設を爆撃せり。
【汕頭】前後三回に互り襲撃し市の背後にある倉庫群を爆撃し更に製油工場を大破せり汕頭の人心は極度に動搖避難者續出。

四月二十八日

1 空軍の活躍

六機を撃墜せり。

この戦闘に我が一機も悲壯なる最後を遂げたり。

【洛陽】(西安)兩飛行場を空襲、滑走路及び格納庫を猛爆これを覆滅し、更に敵軍事施設を粉砕多大の戦果を収めたり。

【武吉官庄】(山西省南部翼城東北方)敵大集團を反復爆撃大打撃を與へたり。

【新村場】(南昌南方市汴東方)陸軍作戦部隊に協力潜入せる敵を攻撃甚大な損害を與へたり。

四月三十日

1 空軍の爆撃

【合澗】(河南省西北部)【南嶺】(山西省臨安南方)空襲を敢行し多大の戦果を収めたり。

【寶慶】(湖南省)軍事施設を爆撃これに大損害を與へたり。

【辰谿】(湖南省)軍事施設及倉庫群を爆撃し又市西側に集結せる軍用汽艇戎克群に相當の損害を與へたり。

【蘭蘭市】(南昌南方)地上部隊に協力敵遊撃隊司令部を徹底的に攻撃青山湖高安附近の敵を偵察攻撃を實施せり

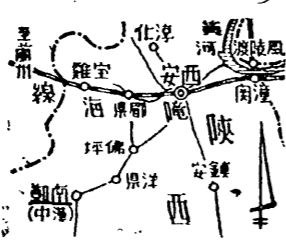
四月二十九日

1 清化鎮(河南省北部)附近に蟠踞する敵約三千を猛攻中の我が部隊はこれを包圍し亂戦、激戦の後敵を北方山中に潰走せしめたり。

2 白宋(湖北省麻城南方)を據點とし妄動中の敵約一千の包圍殲滅を敢行多大の戦果を収めたり。

3 空軍の爆撃

【南鄭】(漢中)【陝西省】一同飛行場に集結中の敵機を殲滅すべく基地を襲撃我が空の精銳は上空に待機中の敵二十數機と壯烈なる空中を演じ遂に敵機十



敵の所謂 四月攻勢

●一般情勢 軍再編成

武漢、廣東の失陥後支那軍當局は敗残兵を整理し、軍の再編成が略一段落を告げ所謂抗戰第二期に入り最近内外の情勢に鑑み自稱「四月攻勢」なるものを考へ出す必要に迫られたり。

抗戰思想の統一

汪兆銘、吳佩孚等の對國民政府和平運動あり、三月北支・中支一齊に行はれし東亞新秩序建設運動と相俟つて、重慶方面に於ける民心の離反は更に深刻化しつゝありこれらの空氣を轉換するため攻勢を以て抗戰思想の統一を圖る必要ありたり。

對支援助強化

最近救國公債募集計畫豫期に反せし爲對内的にも殊に對外的に抗戰保持を誘示せざるを得ない必至の情勢に迫られたり。

●戦況の概況

四月を期し各戦區相呼應し頹勢を挽回せんものと攻勢を取り來たりしかば我軍は空陸相呼應して敵の機先を制する作戰に出で猛攻に次ぐに猛攻を以てし敵は忽ち崩壊し重要な據點を失ひ蔣介石の企圖も逆效果を呈し潰滅への前奏曲となれり。

蘇北戦線

包頭西方に於て京包線の奪回を企圖せる傅作義軍に對し我が軍は機先を制し敵の企圖を粉碎すべく、十日行動を開始し快速を利し疾風迅雷的に陰山山脈を突破後套

三二

(五原、臨河、安北一帶を含む最も豐饒の地域)の要地安北城を奇襲し十一日之を占領。

十三日には五原を空襲し集結中の敵大部隊に軍事施設を爆撃徹底的打撃を與へたり。

次いで黄河を渡河陰山山脈北方の共産遊撃隊と連絡し京包線を窺ふ何柱國軍を猛攻一瞬にして敵を撃攘十九日敵の本據固陽に突入これを殲滅せり。

山西北部

河曲より寧武方面に進入せる何柱國軍に對し我が部隊は十日突如五寨を急襲し敵の企圖を破攘し次いで偏關を急襲し何柱軍を撃滅これを占領せり。

山西南部

運城、夏縣、開喜に來襲せる四川軍及び衛立煌麾下の中央軍は我が猛反撃のため大打撃を蒙り中條山脈中に潰走せり。更に空軍のため猛爆撃を受け收拾すべからざる大混亂に陥れり。

山西中部

二月下旬我が作戦開始せらるゝや、襄陽にありし李宗仁は我が軍の右側背に對し攻勢に出で逐次東南方に進出中なりしが、我が軍は四月七日以來應山西北方二十軒郝家店西方山地帯に於て攻撃を繼續し十二日遂に敵の抵抗を破攘し、又一方十日夕安陸東北地区に進入せる敵をも撃退せり。

蘇北東部

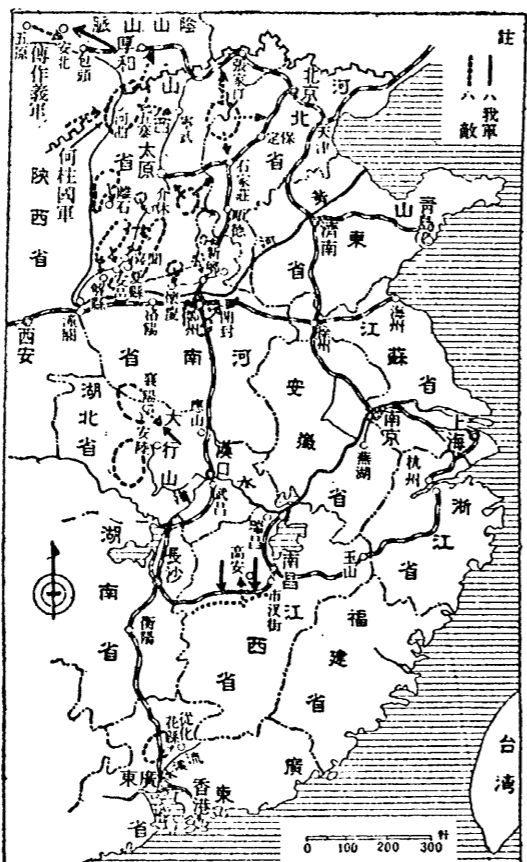
四月一日移動に先立ち北上を開始せる于學忠軍は宿遷東南方に於て我が包圍攻撃を受け潰亂せり。

南昌武寧攻勢

四月攻勢の主作戦區たる南昌長沙の第九戰區に對し徹底的打撃を與へ尙敵追撃の手を弛めず隨所に敵の抵抗を破攘し南進十一日敵の重要據點市汊街及び高安を占領し敵の南昌―長沙守備線を破壊せり。

後の江南部隊

三月



南部各地に蠢動する軍に刺戟され遅れ馳せ乍ら攻撃態勢を見せつゝありし山西軍も亦惨めな敗北をなし重要據點輸社も完全に占領せられたり。

新郷附近

河南省北部懷慶附近にて鐵道線に襲來せ

しが我が軍に撃破せられたり。

開封方面

十二日以來數回に亘り開封巽線を企圖せる孫桐萱軍は我が猛反撃に遭ひ反つて本據中牟をも放棄するに至れり。

漢水方面

三三

南支方面

廣東北方地區に蠢動中の敵に對し我が軍は大討伐作戰を開始六日從化西方地區を経て夕刻帽山附近の敵を撃破し、派潭墟の敵を包圍殲滅的打撃を與へたり。又花縣西南地區に於て敵の大軍を撃破せり。いづれも敵は我軍に機先を制せられ多大の損害を受けた。

敵 空 軍

氣息奄々たる支那航空隊は健氣にも本攻勢に参加し、十一日七機を以て虞郷(山西省西南部)上空に飛來し爆彈を投下せしが我に損害なく更に江西省玉山飛行場より日本空襲を企てしが實現するに至らず反つて我陸海の荒鷲に基地を完膚なきまでに爆破せられたり。

●戦果……(五月四日迄に判明せるもの)

北支方面(四月一日—二〇日頃)

敵の遺棄死體 一一、四六五

鹵獲品多数

我が戦死 一八〇

中支方面(四月一日—二十三日)

敵の遺棄死體 一四、三六〇

鹵獲品多数

我が戦死 六五

南支方面(四月一日—三十日)

敵遺棄死體 一六、二二〇

鹵獲品—山砲 二、速射砲 八。

機關銃小銃等多数

我が戦死 一三六

計 敵の遺棄死體 二二、九四五

鹵獲品多数

我が戦死 三八一

●結 果

蔣介石の豪語せるこの四月攻勢も蔣介石以下各將領とも意志堅確ならず、且つ直接に任じたる部隊の大部は雜軍にして彼等も亦私兵の保存に汲々たり。従つて全師を擧げて出撃せるものは稀で多くは上級指揮官に對する報告用として申譯的に一部の兵を進めたるに過ぎず、この企圖も龍頭蛇尾に終り一つとして目的を達成したるものなく徒らに蔣政権の弱態を中外に暴露し多大の損害を招き蔣政権滅亡に一步踏み入れたるにすぎざる結果となりたり。

昭和十四年五月九日印刷
昭和十四年五月十一日發行 (月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

臺北市榮町二丁目十五番地
印刷人 加藤 豊吉
臺北市京町一丁目四十三番地
印刷所 小塚本店印刷工場

電線、電纜
金物、電池

モーター
電話機

各種塗料

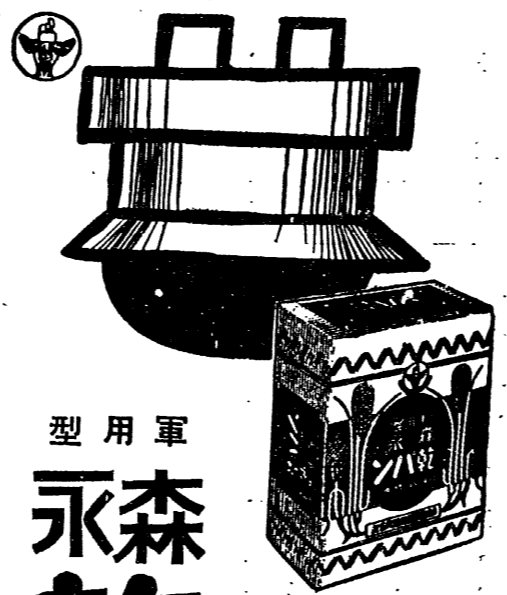
古河電氣工業株式會社臺北販賣店
富士電機製造株式會社臺北出張所
東亞ペイント株式會社臺北出張所

臺北市本町一丁目一七

電話 三〇九一番
三〇八二番

榮養價

米飯の三倍



軍用型 永森乾パン

乾パン 百グラム三九二カロリー
米食 百グラム一四三カロリー
滿洲事變以來小型となり、今では
おいしく食べ易くジャムを付け
ば更にうまくなされます

百グラム三九二カロリー一箱十錢 永森製菓株式会社

郵報
昭和十二年九月二十日第三種郵便認可
昭和十四年五月十七日發行
(九月一日、十一日、廿一日發行) 第六十一號